

平和意識高揚事業

1 平和学習の集いの開催【拡充】

「ヒロシマ平和学習受入プログラム」の一環として、各自治体から派遣された中学生等とファシリテーションの方法等を学んだ広島の中高校生（ユース・ピース・ボランティア）が、被爆体験講話を聴講し、グループ・ディスカッションなどを通して交流しました。

時 期 令和7年8月5日（火）～7日（木）

場 所 広島国際会議場、広島市役所など7会場

内 容 被爆体験講話の聴講、グループ・ディスカッションなど

市外からの参加者数

こども 828 人、引率者 285 人 計 1,113 人（72 自治体（22 都道府県））



グループ・ディスカッションの様子

2 被爆80周年 第1回全国こども平和サミットの開催【拡充】

「ヒロシマ平和学習受入プログラム」の一環として、全国のこどもたちと広島の子どもたちが、共に被爆の実相を学び、それぞれの平和の取組を発表しました。

時 期 令和7年8月6日（水）

場 所 広島国際会議場フェニックスホール

内 容 被爆体験講話の聴講、平和への取組発表など

参加者数 1,202 人

① 市外からの参加者数

こども 708 人、引率者 281 人 （63 自治体（19 都道府県））

② その他の参加者数

当日参加 55 人、広島市内の参加 158 人



発表の様子

3 被爆80周年 第1回広島こども平和サミットの開催【新規】

平和文化月間の行事として、小・中・高校生に、「平和の種」を持ち帰ってもらい、こどもたちの平和への行動を後押しするため、こどもたちによるパネル・ディスカッションなどを行いました。



ユース・ピース・ボランティアによるパネル・ディスカッション

時 期 令和 7 年 11 月 16 日（日）

場 所 広島平和記念資料館メモリアルホール

内 容 被爆楽器等の演奏、平和への取組発表、ユース・ピース・ボランティアによるパネル・ディスカッションなど

参加者数 170 人

4 若い世代による被爆地での平和学習に対する支援【新規】

若い世代を平和記念式典に派遣し、あわせて、「ヒロシマ平和学習受入プログラム」に参加する基礎自治体に対し、国の補助金を活用した財政支援を行いました。

対 象 小・中・高校生を本市に派遣する基礎自治体

支援自治体数

① 派遣経費に対する補助 60 自治体

② 市外宿泊地から平和記念式典への参列支援 4 自治体

5 「平和学習を考える教師の集い」開催事業【新規】

広島修学旅行の実施割合が相対的に高くない、関東地域の公立中学校の教員等を対象に、広島修学旅行を集大成とした平和学習の取組を共有し、各地域での平和学習を推進するため、平和学習に関する研修を実施しました。

時 期 令和 7 年 8 月 21 日（木）～22 日（金）

場 所 広島平和記念資料館、本川小学校平和資料館等

内 容 被爆体験講話の聴講、平和学習に関する

事例発表、広島大学大学院教授による平和学習の説明、グループ・ディスカッションなど

参加者数 21 人



関東と広島の教師によるグループ・ディスカッション

6 平和学習モニター校指定制度【新規】

広島修学旅行の実施割合が相対的に高くない、関東地域の広島修学旅行を初めて実施するなどの公立中学校を対象に、平和学習モニター校指定制度を運用し、あわせて、平和学習に関するノウハウ蓄積を進めました。

支援内容 講師の派遣・学校間交流のマッチング等の事前・事後学習の支援、広島での平和学習、生徒 1 人当たり 3,000 円の助成金の支給

指 定 校 8 校（うち令和 7 年度修学旅行実施校：3 校）

7 国際的平和学習用教材の開発【新規】

平和学習関連施設が発行する各種資料の収集・分析や、広島市内小・中学校の平和学習の実施状況及び指導内容に関する調査を行うとともに、広島大学教育学分野の教員への聞き取り調査を実施し、国際的な平和学習の実態についての情報収集を行いました。

8 ヒロシマ・ピース・ボランティア事業

(1) 事業の概要

被爆体験を持たない市民も含め、市民参加による被爆体験の継承活動を推進していくため、平成 11 年度（1999 年度）から広島平和記念資料館の展示解説（定点解説及び移動解説）及び平和記念公園及びその周辺の慰霊碑等の移動解説を行うヒロシマ・ピース・ボランティア事業を実施しています。

令和 8 年 3 月 31 日現在、ヒロシマ・ピース・ボランティアの登録者数は 183 人です。

令和 7 年度は、平和記念公園及びその周辺の慰霊碑等の移動解説を 3,451 件、18,006 人に対し実施しました。また、資料館内は混雑のため、移動解説を休止しました。

(2) 活動内容・予約方法

ヒロシマ・ピース・ボランティアの活動時間は午前 10 時 30 分から午後 3 時 30 分までで、定点解説と移動解説があります。いずれも無料です。館内の混雑状況により一部変更となる場合があります。事前にお問い合わせください。

① 定点解説

資料館の展示の解説を行います。

② 移動解説

平和記念公園及びその周辺の慰霊碑等を一緒に歩きながら解説します。

※ 現在、資料館内の移動解説は休止しています。

ア 所要時間

平和記念公園 60 分間～90 分間程度

イ 人数

平和記念公園 1 グループ 10 人まで

ウ 申込

● 事前予約

解説希望日の 1 年前の当日から 1 週間前まで受け付けます（熱中症対策のため、7 月・8 月・9 月及び広島県に熱中症警戒アラートが発表された日を除きます。）。電話でお申し込みください。

受付時間 午前 9 時～午後 5 時

※ 資料館の休館日（12 月 30 日及び 31 日のほか臨時休館日等）は受け付けていません。



平和記念公園内の慰霊碑を解説するヒロシマ・ピース・ボランティア

● 当日受付

当日の状況により対応可能であれば受け付けます（ただし、広島県に熱中症警戒アラートが発表された日は、中止します。）。

〔事前予約申込・問合せ先〕

（公財）広島平和文化センター 平和文化企画課
受付専用電話（082）541 - 5544

9 ユース・ピース・ボランティア事業【拡充】

広島の若い世代が成人してからも広島の平和文化を支え、その中から各界で活躍する平和人材を輩出していくことを視野に入れ、広島大学及び広島市教育委員会とも連携し、ボランティア活動を量・質ともに高めるとともに、中学生、高校生、大学生の各段階に応じて一貫した活動と必要な研修を実施しました。



ユース・ピース・ボランティアのガイド活動の様子

① 平和学習の集いの運営を行う中・高校生

実施内容 被爆の実相やファシリテーション方

法等を学ぶ研修、「第1回全国平和学習の集い」におけるグループ・ディスカッションの進行など

参加者数 333人（15自治体（5県））

② 国連の研修事業、海外大学の広島研修等への対応など外国人に英語で対応する高校生・大学生

参加者数 138人

10 若者による「ヒロシマの心」の発信【拡充】

若者が主体的に核兵器廃絶を進める力を身に付け、国内外に発信していくことができるよう、広島で学生生活を送る大学生を対象に専門家による講義や討論を内容とする専門研修を行いました。

内 容 核軍縮等に関する講義や討論、長崎視察、ナガサキ・ユース代表団との交流、核兵器廃絶に向けた提言作成など

参加者 10人

11 広島平和文化センターボランティアスタッフ活動支援事業【拡充】

広島平和記念資料館の来館者等に被爆の実相等を正確かつ効果的に伝えるため、広島平和文化センターの各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質向上を図ることを目的に、体系的な研修を実施しました。

対 象 被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者、家族伝承者など
内 容 総合研修（3回）、実技研修（2回）、語学研修（3回）
参加者 延べ 370 人

1 2 平和学習プロジェクト・チームの運営【新規】

広島大学及び広島市教育委員会の参画を得て平和学習事業運営協議会を開催し、平和教育学に関する専門的知見を基礎としつつ、広島市立学校での平和学習との密接な連携を図りながら、本財団の平和学習に関する事業の充実を検討しました。

対象事業 「第1回全国平和学習の集い」、「第1回全国こども平和サミット」、「広島こども平和サミット」、「平和学習を考える教師の集い」、「平和学習モニター校指定制度」、「国際的平和学習用教材の開発」、「ユース・ピース・ボランティア」等

1 3 スポーツを通じた平和意識の醸成

広島東洋カープやサンフレッチェ広島など広島のプロスポーツチームの試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた平和のメッセージを発信しました。

（1）ピースナイターの開催

開催日 令和7年8月13日（水）
場 所 MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島
（広島市民球場）
内 容 ①大型ビジョンでの市長等のビデオメッセージ放映
②広島東洋カープの監督、選手等のユニフォームへのピースワッペンの装着



ピースナイター

（2）サンフレッチェ広島新人選手の研修における平和学習の実施

開催日 令和7年12月13日（土）
場 所 エディオンピースウイング広島
内 容 ユース・ピース・ボランティアによる原爆被害の概要説明やサンフレッチェ広島新人選手とのグループディスカッション等

1 4 平和文化の普及促進

核兵器廃絶に向け、市民一人一人が日常生活の中で平和について考え、行動する「平和文化」を市民社会に根付かせ、平和意識を醸成する取組を実施しました。

（１）平和文化月間におけるイベントの開催等

広島市が「平和文化月間」と定めた 11 月に、市民が主体となったイベントなどを集中的に実施しました。

① ポップカルチャーひろしま 2025 における平和文化コーナーの出展

開催日 令和 7 年 10 月 19 日（日）

場 所 NTT クレドホールロビー

内 容 VR ゴーグルの体験と平和へのメッセージの作成

参加者 112 人



VR ゴーグルの体験

② 「夏の雲は忘れない -被爆 80 年の記憶-」 朗読公演（市民団体との共催事業）

開催日 令和 7 年 11 月 2 日（日）

場 所 広島平和記念資料館 メモリアルホール

内 容 被爆 80 年の広島で、戦争を記憶する女優と広島の中学生在が原爆・平和を主題とした手記や詩を朗読しました。

参加者 約 450 人

③ 広島こども平和サミット関連平和展示

開催日 令和 7 年 11 月 16 日（日）

場 所 広島国際会議場

内 容 4 団体による平和に関する展示発表（原爆の絵や平和メッセージ等の展示、折り鶴作成体験など）

参加者 約 110 人

④ 広島広域都市圏と連携した集客促進及び広報

広島広域都市圏と連携し、広報番組や特設ホームページ、イベントカレンダーを通じて平和文化月間の周知を図るなど、住民や観光客等による圏域の周遊を促す取組を実施しました。

⑤ 広告媒体を活用した啓発活動の実施

平和大通りへのバナーの掲出、市内中心部や広島駅等の人通りの多い地点への啓発ポスターの掲出、市役所や区役所への懸垂幕の掲出等を行いました。

（２）年間を通じた取組

市民団体と連携した取組により、年間を通じて、市民一人一人に平和について考えてもらう機会を提供しました。

15 国内に向けた平和推進事業の企画・実施等【新規】

多摩^{たま}地域平和ユース研修事業による広島派遣者 26 人を受け入れ、研修プログラムへの支援を行いました。

日 程 令和 7 年 8 月 20 日（水）～22 日（金）

内 容 被爆体験講話の聴講、平和記念資料館の見学、グループワーク など

参加者 東京都多摩地域在住の高校生・大学生 26 名

16 機関紙の発行等

（1）機関紙の発行

平和文化の普及と国際交流・協力の推進及び本財団の事業の広報のため、和文機関紙「平和文化」（昭和 51 年度（1976 年度）創刊）を A4 判、8 ページの体裁で 1 回 5,000 部、年 4 回発行し、令和 7 年度には 223 号まで発行しました。

また、外国人の方にも平和文化活動を広報するため英文機関紙「PEACE CULTURE」（昭和 53 年度（1978 年度）創刊）を A4 判、12 ページの体裁で 1 回 1,500 部、年 2 回発行し、令和 7 年度には 94 号まで発行しました。



和文機関紙「平和文化」



英文機関紙「PEACE CULTURE」

和文機関紙「平和文化」配布状況

令和 8 年 3 月 31 日現在

区 分	件 数	部 数
国内個人・団体	406	486
市内平和関係団体、ネットワーク団体	237	242
国公立・大学図書館	183	184
財団役員・評議員・会員（維持・賛助）	133	133
地方自治体	44	44
国際交流・協力機関・団体	136	175
学校（市内・県内の小・中・高等学校等）	71	183
広島市・広島県関係個人・部署・団体（配架含む）	509	1,443
広島平和記念資料館来館者等への配布	—	2,110
合 計	—	5,000

英文機関紙「PEACE CULTURE」配布状況

令和 8 年 3 月 31 日現在

区 分	件 数	部 数
国内個人・団体	85	125
市内平和関係団体、ネットワーク団体	12	12
国公立・大学図書館	14	15
地方自治体	44	44
国際交流・協力機関・団体	107	145
学校（市内・県内の大学、専門学校等）	12	105
駐日大使館	156	156
広島市・広島県関係個人・部署・団体（配架含む）	20	107
広島平和記念資料館来館者等への配布	—	791
合 計	—	1,500

（２）事業報告「平和と交流」の作成

本財団の組織内容、予算書、決算書や事業の詳細な紹介・広報を目的として、事業報告「平和と交流」の 2026 年版（令和 7 年度事業）（A4 判、167 頁、PDF 形式）を作成し、令和 8 年 8 月 28 日付で本財団のホームページに掲載しました。

（経緯） 1 昭和 42 年（1967 年）10 月 13 日に広島市の一局として広島平和文化センターが発足し、昭和 46 年（1971 年）3 月 31 日に「平和と交流」の前身である「平和の推進」を創刊しました。その後、昭和 48 年度と 50 年度に隔年で刊行しました。

2 昭和 51 年（1976 年）4 月 1 日の財団化に伴い、「平和の推進」に新しい内容を盛り込み、財団の事業内容や原爆・平和に関する有益な情報を提供するため引き続き刊行し、昭和 52、54、56、58 年度までは隔年で、昭和 59 年度からは毎年刊行しました。

3 平成 10 年（1998 年）4 月 1 日、組織改正により財団法人広島平和文化センターと財団法人広島市国際交流協会が統合され、本報告書の名称を「平和の推進」から「平和と交流」と改めました。

4 平成 19 年度（2007 年度）からは冊子形式による作成を中止し、ホームページ（<https://www.pcf.city.hiroshima.jp/hpcf/jigyol/>）での公開となりました。

（３）インターネットによる情報の発信

本財団の情報公開を進めるとともに、国内外の方々へ平和文化の普及を目的として、本財団の概要（設立目的、沿革、事業紹介、組織など）や機関紙「平和文化」などを日本語と英語で掲載したホームページを平成 16 年（2004 年）4 月 1 日に開設しました。

令和 7 年度のアクセス件数は 500,085 件でした。

（URL）<https://www.pcf.city.hiroshima.jp/hpcf/>



公益財団法人広島平和文化センターホームページ

(4) 学会への助成

紛争の諸原因と平和の諸条件に関する科学研究を行うことを目的として、日本平和学会が昭和 48 年（1973 年）に発足しました。この学会の平和研究の促進を図るため、昭和 63 年度（1988 年度）に入会し、平成 27 年度（2015 年度）からは賛助会員となり、年間 3 万円を助成しています。

17 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用

(1) 広島平和記念資料館ホームページ

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を世界に訴え、国際世論を醸成していくため、原爆・平和に関する情報を発信しています。

● 広島平和記念資料館ウェブサイト

平成 7 年（1995 年）8 月から広島市のホームページの中に平和宣言や原爆被害の概要を掲載し、インターネットを活用した平和情報の発信を行ってきました。

平成 29 年（2017 年）4 月からは、従来の「ヒロシマ・ピース・サイト」をリニューアルした新しいウェブサイトを公開しています。また、令和 4 年度にフランス語、ドイツ語及びイタリア語を、5 年度にスペイン語と中国語を追加し、現在外国語は英語を含む 6 言語でホームページを展開しています。

令和 7 年度のアクセス件数は 2,010,928 件でした。

(URL) <https://hpmmuseum.jp/>

また、子ども向け平和学習ホームページ（キッズ平和ステーション）の令和 7 年度のアクセス件数は 149,233 件でした。

(URL) <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/kids/>



広島平和記念資料館ホームページ



広島平和記念資料館
Hiroshima Peace Memorial Museum

広島平和記念資料館Website: Toolに「もどる」Return to Hiroshima.jp

Copyright(C)2022 Hiroshima Peace Memorial Museum

キッズ平和ステーション



(2) データベース

① 事業の概要

平和に関する資料を保存し、被爆体験の継承を図るとともに、多くの方々に活用していただくため、平成 4 年度（1992 年度）から各種の情報を含む平和データベースシステムの構築を進めています。その後、広島平和記念資料館所蔵被爆資料の全データを新たに加えるなど、データベースの大幅な機能・内容の拡充を行った上、より広く活用されるよう、平成 11 年（1999 年）12 月 8 日からインターネットによる公開を始めました。

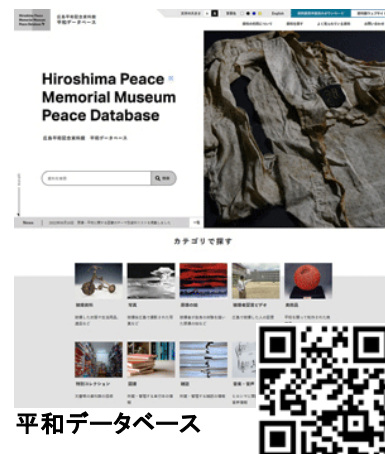
令和 4 年（2022 年）2 月 1 日には、デザインを一新するとともに、スマートフォン等で閲覧した際にも表示が最適化されるレスポンスデザインを採用したほか、資料館が

所蔵する文書等の資料群の目録を公開する「特別コレクション」カテゴリーを新設するリニューアルを行いました。国立国会図書館が運用する分野横断型統合ポータル「ジャパンサーチ」のほか、広島県内の図書館等が所蔵する図書情報を収録する「広島県内図書館等横断検索」、全国の図書館等の図書情報を収録する「カーリル」でも平和データベースに掲載された情報の検索が可能となっています。

(URL) <https://hpmm-db.jp/>

【公開している資料】

- | | |
|---------------|-----------------|
| ①被爆資料 | ⑥原爆の絵 |
| ②平和をテーマとした美術品 | ⑦特別コレクション |
| ③原爆記録映画などの動画 | ⑧平和に関する音楽 CD など |
| ④被爆体験者証言ビデオ | ⑨平和関係図書（単行本） |
| ⑤写真 | ⑩平和関係図書（雑誌） |
| | 約 10 万点 |



② 平和データベースの利用方法

平和データベースはどなたでも自由に閲覧・検索することができます。画像・文章の無断転用はできません。

【お問合せ】

- 被爆資料、写真、原爆の絵、美術品、被爆者証言ビデオ、特別コレクションについては広島平和記念資料館 学芸展示課まで
電話：(082) 242 - 7796
E-mail：gakugei@pcf.city.hiroshima.jp
- 図書（単行本・雑誌）、音楽・音声、動画については広島平和記念資料館 情報資料室まで
電話：(082) 241 - 4004
E-mail：library@pcf.city.hiroshima.jp

1 8 情報資料室の管理運営

（１）施設の紹介

情報資料室は、昭和 49 年（1974 年）6 月 1 日に広島平和記念館 2 階に図書室として開設され、原爆・平和に関する資料の収集を行ってきました。その後、平成 6 年（1994 年）6 月に広島平和記念館が広島平和記念資料館東館として改築されたのに伴い、東館地下 1 階に情報資料室として設置されました。

この情報資料室は被爆体験を継承・伝承するとともに、平和文化の普及、高揚を図るための調査、研究



情報資料室

の場とすることを目的として運営しています。

なお、情報資料室には、本財団の蔵書のほか、原爆資料保存会から広島市に寄託された図書もあります。

（２）資料一覧（令和８年３月３１日現在）

蔵書数

● 広島平和文化センター

（単位：件）

区 分	蔵書数	区 分	蔵書数
和 書 計	31,850	産 業	333
総 記	2,053	芸 術	2,345
哲 学	528	言 語	133
歴 史	4,260	文 学	10,478
社会科学	9,692	洋 書 計	4,108
自然科学	778	雑 誌 計	40,292
技 術	1,250	合 計	76,250

（注）同じタイトルの本が複数あるときは、１件として数える。

● 原爆資料保存会

（単位：冊）

区 分	蔵書数	区 分	蔵書数
文 学	1,464	芸 術	223
社 会	1,054	洋 書	365
原子科学	866	重要文献	153
体 験	557	目 録	67
歴 史	191	スクラップブック	193
医 学	968	合 計	6,101

購入・寄贈図書数（広島平和文化センター）

区 分	購入図書			寄贈図書		
	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
単 行 本	件 79	件 76	件 97	件 444	件 735	件 1,117
雑誌・機関紙	26	34	29	311	317	388
計	105	110	126	755	1,052	1,505

（３）利用方法及び利用状況

12月29日～1月1日を除いて、午前9時から午後5時まで、原爆・平和に関する図書、雑誌、各種視聴覚資料などの閲覧、被爆資料の検索ができます。また、お問い合わせにお答えするほか、コピーサービス（有料）も行っています。

利用者数

(単位：人)

区 分	人 数
令和 7 年度	12,531
令和 6 年度	6,453
令和 5 年度	7,246